

前回の第三者委員会における意見と 対応方針について

令和 3 年12月15日
農 林 水 産 省

1 令和2年度第2回多面交付金第三者委員会における主な意見及び対応方針

R3.3. 4 令和2年度第2回委員会	ご意見	委員名	対応方針(案)
【資料2】 令和元年度多面的機能支払交付金の取組状況に係る分析結果について	現状では景観形成・生活環境保全以外の項目の実施が大きく伸びるような状況はなかなか期待できないため、外側からの支援があった方がよいのではないかと。	星野委員	全国(520の活動組織を抽出)の活動組織等を対象に景観形成・生活環境保全以外の取り組みが少ない理由についてアンケートを実施中。次回の第三者委員会において報告する。 【次回(令和3年度第2回第三者委員会)において報告】
【資料3】 令和2年度多面的機能支払交付金の効果についてのアンケート結果及びSDGsと本交付金の整理について	活動している方の年齢構成として、65歳以上の方が非常に増えた一方、次世代の後継者がいるという割合が6割ぐらにあることについて、この次世代の後継者の年代は如何に。	皆川委員	全国(520の活動組織を抽出)の活動組織等を対象に、次世代の後継者の年代についてアンケートを実施中。次回の第三者委員会において報告する。 【次回(令和3年度第2回第三者委員会)において報告】
【資料4】 令和2年度の自己評価・市町村評価の結果及び新たな自己評価・市町村評価の試行調査結果等について	自己評価結果を改善につなげていくためには、国の支援・サポートする体制が必要。市町村や都道府県の情報交換のようなものが、もう少ししっかりと横方向に展開されることが有意義だと思う。	星野委員	新たな自己評価・市町村評価について、国において全国的な結果の分析を行い、その結果を農政局等を通じて、都道府県・市町村へ提供することで、情報交換を進める。 【資料4 P18】
資料全般	活動組織の構成について、外部から新しい人材をもっと取り込んでいくべきではないかと。都市住民等、地縁的なつながりのない地域住民・専門知識のあるNPO組織などをメンバーとして取り込むような拡大コミュニティをベースに取り組むことが必要ではないかと。また、ネット社会の中でもコミュニティが存在しているので、それを活用していったらどうか。	星野委員	令和4年度予算要求において、活動組織が地域外の人を共同活動に呼び込む「農的関係人口の拡大」の取組を事業対象とする制度拡充を要求中。また、活動組織や推進組織に対してSNSを活用した情報発信を促進するとともに、農村振興局Facebookを活用して外部の人向けに様々な取組を紹介する。 【資料1 P2】
	自己評価にESG投資の観点を入れる、多面交付金とSDGsの関係の観点を入れることは、地域内だけではなく、都市住民や国民全体、場合によっては国際的にも発信できるツールになっていると思う。 また、都道府県の第三者委員会にも、このような考えの展開があると説明いただき、共通認識を持ってもらうことも重要。	中嶋委員	新たな自己評価・市町村評価は、ESG投資の考え方を活用していることを本格運用を行う際に周知する。また、多面交付金とSDGsの関係については、昨年度の第三者委員会で整理した結果を周知したうえで、都道府県の間評価書において、SDGsの達成への貢献を記載することで、共通認識を形成する。
	他県の活動組織のメンバーに入っているが、コロナ禍で実際に活動ができないという状況が続いている。この活動に対し、どう支援したらよいか非常に苦しんでいる状態。コロナの影響が長引くようであれば、どういった対応ができるのかということを考えていく必要があるのではないかと。	皆川委員	コロナ禍での対応等について、都道府県等と意見交換を行い、地域外からの参加予定者への体験動画の配布事例やITツールを活用した総会開催事例などを紹介した。 【資料1 P3】

- 新型コロナウイルス禍でも水路等を維持管理するための活動は継続的に行われる必要。
- 兵庫県の活動組織では、感染拡大を防止するため、ITツールを活用して総会等を実施したり、稲刈りをバーチャルで体験できるようにDVDを制作、配付する等工夫した取組を実施。

ITツールを活用して役員会や総会での「3密」を回避

つそめ

かさい

○都染環境保全隊（兵庫県加西市）

認定農用地面積：田 41ha
畑 1ha
対象施設：水路 11.1km
農道 4.2km
ため池 3箇所

（感染防止のために講じた工夫）

新型コロナウイルス禍において組織内の合意形成を図るために、下記の取組を実施。

- ① メールやSNS等を活用して役員会を実施。
- ② リモート会議ソフトを活用して総会を実施。併せて説明資料の見せ方を工夫（動画、グラフ等を取入れ視覚化）する事により参加者の理解度向上を図った。

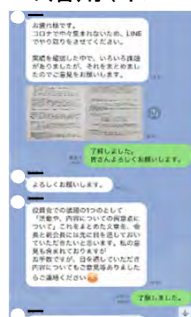
【新型コロナウイルス禍前】

対面で会議



【感染防止策を実施】

SNSの活用（イメージ）



リモート会議



稲刈りをバーチャル体験できるDVDを制作・配付

かんて

こうべ

○神出東エコ農業活動組織（兵庫県神戸市）

認定農用地面積：田 44ha
畑 1ha
対象施設：水路 13.8km
農道 12.9km
ため池 5箇所

（感染防止のために講じた工夫）

- ① 子供連れ参加者が多い「稲刈り体験」の実施を見送り、代替として各自バーチャルで体験できるように地元で稲刈りの様子の動画を撮影編集し、収穫したお米とDVDを参加予定者に配布。
- ② 本年度の対面での活動は基本的に地元関係者だけとし、濃厚接触者を明確に特定できるように心がけた。

【新型コロナウイルス禍前】

屋外ほ場で稲刈り体験



【感染防止策を実施】

バーチャルで稲刈り体験

